

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)	授業コード	E002613
担当教員名	鍋田 耕作		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	4
履修上の注意または履修条件	人間力の育成に必要な科目ですので、必ず受講して下さい。担任制の授業です。		
受講心得	聴くこと、見ること、真剣に考えること、そして、自分の意見を持つことを心がけてください。		
教科書			
参考文献及び指定図書	適宜紹介していきます。		
関連科目	社会福祉原論、高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法、介護概論、地域福祉論、社会保障論		

授業の目的	<p>少子高齢社会の進行や家庭・地域における子育て機能の変化、子育てと仕事の両立など子どもと家庭をめぐる環境が著しく変化してきており、児童家庭福祉の役割としてジェネラリストソーシャルワークの視点からとらえることが求められています。</p> <p>私のゼミナールでは、多様化する福祉サービスの担い手として、深い人間理解と広い社会的視野から、専門的な知識及び技術の習得や「子どもを健やかに生み育てる環境づくり」について理解と考察を深めていきます。</p> <p>また、社会福祉士国家試験を視野に入れた取り組みも行っていきます。</p>
授業の概要	毎回のレポート(感想や自分自身の考え)を提出してもらいます。

○授業計画

学修内容	学修課題(予習・復習)	
ゼミ生自らの実践と研究課題を見出して、調査研究を行い、様々な角度からの考察を深めていく過程を共同作業の体験を通して理解していきます。また、この作業はゼミナールⅣでの卒業研究論文のテーマを見つけることにつながります。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	児童家庭福祉分野の現状と課題を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	児童家庭福祉分野の課題に対して自分の考えを表現することができる。
【思考・判断・創造】	児童家庭福祉分野の現状を踏まえ、その課題に対して考察することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		50点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	講義でのレポートをもとに総合的に判断します。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	